

GINGA REPORT 401

No. 101
2023.10

そらんぼ四日市 検索

発行日：令和5年10月1日
編集&発行：四日市市立博物館・プラネタリウム
電話：059-355-2700

10月の星空

星図：ステラナビゲータ11/(株)アストローツ

小さな三角形

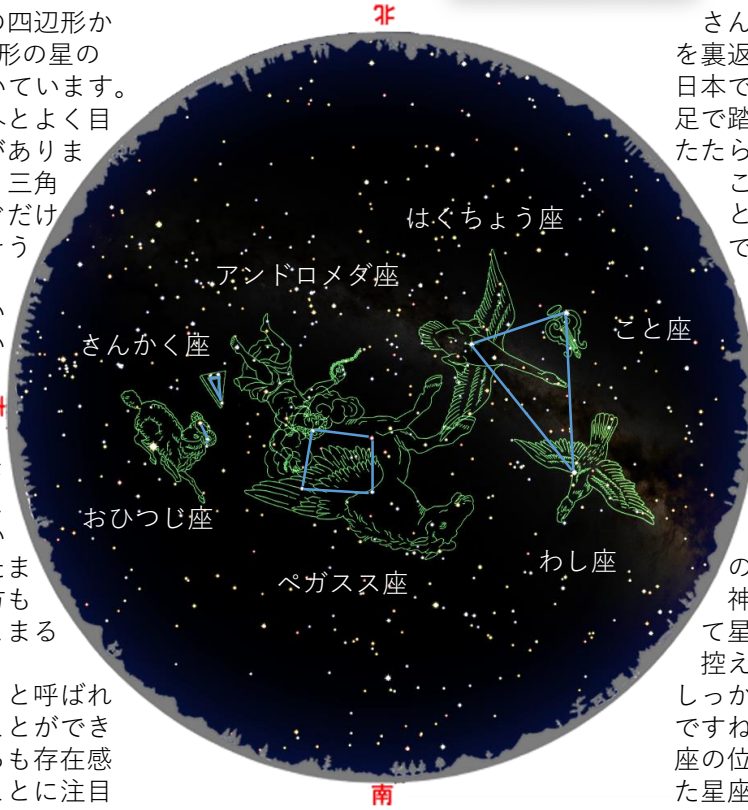
秋の夜空には、ペガサスの四辺形から北東に向かってのびるV字形の星の並び、アンドロメダ座が輝いています。この足元付近を見ると、意外とよく目につく小さな細長い三角形があります。これがさんかく座です。三角形といっても、三つ星を繋ぐだけなら、夜空のどこでも作れそうで、戸惑うかもしれません。ですが、さんかく座は小さいながらも形がしっかりしていて、明るい星がないわりに、目立つ存在です。

古代ギリシャ時代では、ギリシャ文字のデルタが、さんかく座の形と似ていることから、デルトトンと呼んでいました。また日本でも、見たまま、三角星とよんでいる地方もあり、古くから人々の目にとまる星座であったようです。

春、夏、冬には「大三角」と呼ばれる有名な三角形を見つけることができますが、秋には小さいながらも存在感を放つ、さんかく座があることに注目していただけたいと思います。

10月15日21時の星図

空飛ぶ金毛の牡羊



さんかく座のすぐ南寄りに、への字を裏返したような星並びがあります。日本ではこの形が製鉄のときなどに、足で踏んで風を送るたたら(たたら)の形とみて、たたら星と呼んでいました。

この形はおひつじ座の角の部分だともされています。ギリシャ神話では、おひつじ座は人の言葉が話せる、金色の毛をした空を飛ぶ牡羊で、大神ゼウスの使いをしていたとされています。

あるとき、テッサリアのプリクソス王子とヘレー王女が叔母によって殺されかけたことがありました。この時、ゼウスの命令によって空に飛びあがり、二人を助けたのが牡羊です。この功績により、羊の金毛の皮が大神ゼウスによって、天に上げられて星座になったのだそうです。

控えめなおひつじ座ですが、実はしっかりと功績を残した星座だったんですね。また、昔は春分点がおひつじ座の位置にあり、人々に注目されていた星座でもあります。今年は明るい木星を目印に、探してみてください。

開館30周年記念 宇宙塾

第二の地球はとてつもない数存在する
-天文学が明らかにした系外惑星の世界-

日時：10月14日(土) 18:20~20:00

場所：5階 プラネタリウム

定員：140人 料金：無料

講師：国立天文台特任(上席)教授 渡部潤一

難易度：初級(中学校程度)

その他：中学生以下は保護者同伴

最新の研究によって見えてきた新たな太陽系の姿や、生命の可能性が考えられる系外惑星について、国際天文学連合の「惑星の定義委員会」委員でもあった渡部潤一先生にお話しいただきます。

開館30周年記念 コズミックスクール

プラネタリウムの製作とバックヤードツアー

日時：11月3日(金・祝) 10:00~12:45

場所：1階講座室

定員：20組(応募多数の場合は抽選)

料金：500円/セット

対象：小学3年生以上と保護者

申込：10月3日から10月24日(必着)

詳しくは博物館HPをご覧ください。



豆電球式の簡単なプラネタリウムを製作し、星空を再現します。また、当館プラネタリウムのバックヤードツアーを行い、機器の特徴やしくみについて解説します。

博物館主催 スターウォッチング

博物館主催きらら号観望会
◆月・木星・土星を見よう

日時：10月28日(土) 18:00~19:30

場所：博物館前市民公園

※申し込み不要、参加無料、天候不良時は中止。

※参加者が多い場合は受付を制限することがあります。

※天候不良等による実施判断は、開始時刻の3時間前に当館ホームページ及びFacebookで発信します。



編集後記

秋は明るい星が少なく、星座を探すのもなかなか大変です。ペガサス座やアンドロメダ座など、比較的探しやすい星座から、望遠鏡を使わないと見られない星を見つけ出すのも秋の夜空の楽しみ方の一つかもしれません。

そんな秋の夜空でも見つけやすいのは、やはり月ではないでしょうか。旧暦の8月15日に見える月を中秋の名月と言いますが、旧暦の9月13日に見える月のことを十三夜と言います。現在の暦で言うと10月ごろ、今年には10月27日になります。満月前の少し欠けた趣のある月を眺めてみませんか。

10月の月

6日  下弦

15日  新月

22日  上弦

29日  満月